

名古屋市内におけるオオアメンボ（カメムシ目アメンボ科）の記録について

澤田 宗一郎

株式会社テクノ中部 〒455-8512 名古屋市港区大江町3-12

Records of *Aquarius elongatus* (Hemiptera Gerridae)
from Nagoya city, Aichi, Japan

Sôichirô SAWADA

Techno Chubu Co., Ltd.
3-12 Ôe-chô, Minato-ku, Nagoya, Aichi, 455-8512 Japan

Correspondence:

Sôichirô SAWADA E-mail: pirkimerus@gmail.com

要旨

名古屋市内において、オオアメンボは絶滅のおそれのある昆虫の1種である。同市内における本種の生息状況調査を2017年10月から2018年8月にかけて実施した結果、新たに6区9箇所では生息が確認された。しかしながら、いずれの生息場所においても確認できた個体数は少なく、生息地の季節的な利用状況と本種の繁殖状況の継続的な調査がのぞまれる。

はじめに

アメンボ科の昆虫は、水溜りや河川、池などの水面を滑走するカメムシ目の昆虫で身近な水環境でよく見かけることから馴染み深い昆虫の一つである。特に名古屋市内においては同市上下水道局のイメージキャラクターとしてマンホールなどに使用されているため、より認知度の高い昆虫と言える。

本科の中でもオオアメンボ *Aquarius elongatus* (Uhler, 1896) は、日本最大種で池沼などの止水域、緩流に生息し日陰となる水面を好むことが知られている（林・宮本, 2018）。

本種は本州から九州に分布し（林・宮本, 2018）、愛知県内では、名古屋市、岡崎市、瀬戸市、春日井市、豊川市、豊田市、西尾市、犬山市、新城市、知多市、日進市、田原市、長久手市、豊根市の13市1村から記録がある（浅岡・家城, 1990；浅岡, 1991；堀・横井, 1991；吉富・長谷川, 1997；浅岡, 2008；矢崎・石田, 2008；

浅岡, 2014；矢崎, 2015A；新修豊田市編さん専門委員会, 2018）。また、国外からは韓国、台湾、中国に分布する事が知られている（Aukema・Rieger, 1995；林・宮本, 2018）。

愛知県内での本種の生息地は減少しており、県のレッドリスト（愛知県環境部, 2015）や岡崎市のレッドデータブック（大平, 2014）では準絶滅危惧種（NT）として掲載されている。また、県内でも特に名古屋市内では熱田区および守山区と生息地が限られていることから、同市のレッドデータブックで絶滅危惧IB類（EN）として掲載され、絶滅のおそれのある昆虫のひとつとされる（矢崎, 2015B）。

本種は特に名古屋市内で危機的な状況にあるが、筆者が2014年10月13日に同市内の千種区法王町（揚輝荘）を訪れたところ、庭園内の池で本種の生息を多数確認した。本種が確認された揚輝荘は、観光地として有名な覚王山日泰寺の南側に位置する庭園であるが、これまでに

同所および千種区内における本種の生息記録はなく、同市内における新たな産地であると判断された。

このことから、名古屋市内の公園や寺社、庭園などの池を改めて調査することにより、本種の新たな生息地の発見が期待されたため、同市内における本種の生息状況調査を実施した。

調査方法

調査期間：2017年10月14日から2018年8月25日

調査場所：名古屋市内の13区24箇所。前述の通り、本種は池沼の日陰環境を好むことから、樹林に囲まれ日陰が出来るような池をインターネット上の航空写真で確認し、同市内の16区のうち、本種の生息が見込まれる13区内で調査を実施した。

記録方法：本種はアメンボ科の他種よりも著しく大型であり、目視等による観察でも同定が比較的容易である。そのため、事前に選定した箇所へ赴き、目視または双眼鏡（Kowa BD42-10XD PROMINAR）、デジタルカメラ

（Canon PowerShot SX60 HS）を用いて池や河川の緩流部の水面を確認し、観察されたアメンボ科成虫の記録を行った。また、可能な限り生息地で確認された同科の昆虫をタモ網で採集し、標本を作製した。なお、標本は筆者が保管している。

結果および考察

名古屋市内の13区24箇所における調査により3亜科8種のアメンボ科昆虫が確認され（図1、表1）、このうちの6区9箇所で新たにオオアメンボの生息を確認した。しかしながら、過去に記録のある熱田区および守山区については本種の生息を確認出来なかった。なお、アメンボ科他種の記録はオオアメンボと同所的にいた種の他に同じ敷地内の別場所で確認されたものも含まれる。その他、名古屋市内におけるアメンボの確認種数は今回確認された8種の他にエサキアメンボを加えた9種が確認されているが（名古屋市、名古屋市産昆虫類目録、<http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/53-5-22-2-3-3-0-0-0-0>。

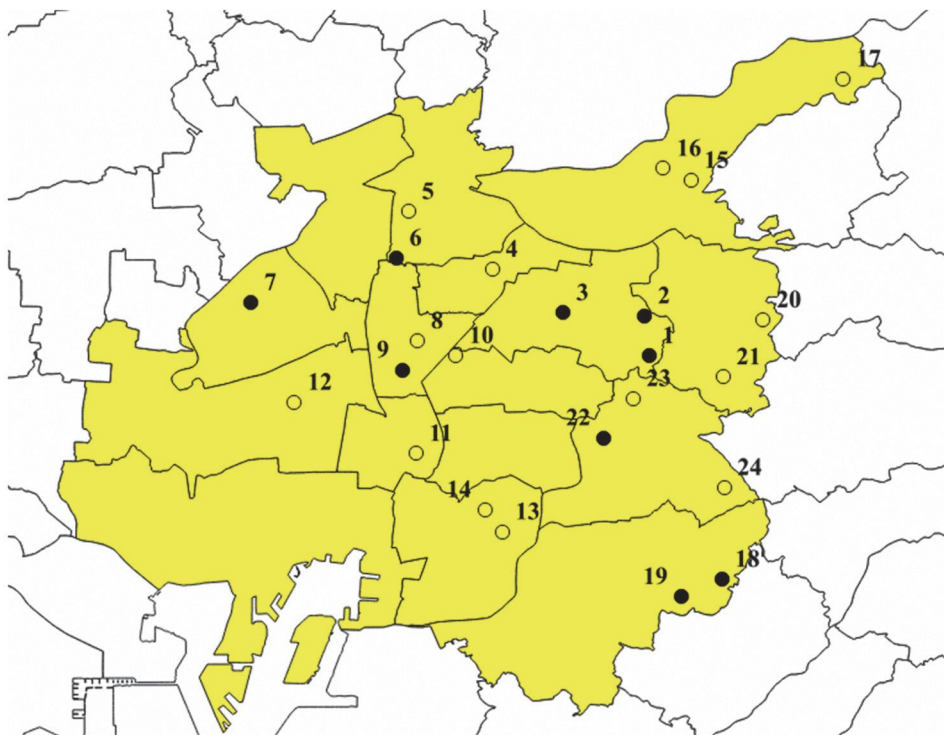


図1. 調査地

図中の「○」は調査地、「●」はオオアメンボを確認した調査地を示す。

本図は、国土交通省国土政策局国土情報課 Webサイト 国土数値情報 ダウンロードサービス（<http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>）2018年9月3日確認より作成。

html, 2018年8月27日確認), エサキアメンボについては確認されなかった。

調査により確認した本種の生息環境は自然池および人工池で、いずれについても樹木に囲まれ、木の枝葉等で池の水面に日陰ができる環境であった。本種の生息場所は、水深が50 cm程度から1.5 m以上で緩やかな流れがある池であったが、ほぼ完全止水の池でも確認された。また、一見すると生息に適していないような水面に植物由来の浮遊物のある池や濁りの酷い池、捕食者となりうるコイやウシガエルが同所的にいる池でも確認された。

今回の調査によって名古屋市内における本種の生息確認箇所は増加したものの、いずれの生息地についても確認個体数は少ない状況にあった。しかしながら、千種区の揚輝荘や緑区の水広公園では比較的多くの個体が観察され、このうち揚輝荘では初確認から3年が経過した2017年にも生息が認められた。また、緑区のみどりが丘公園では2018年の5月と8月の調査で生息が確認されたことから繁殖場所として利用している可能性も考えら

れた。調査地のなかには、千種区の平和公園のように2017年10月の調査で本種の生息を確認できなかったが、2018年6月には確認された場所もあることから、移動・分散時期のみに利用している箇所もあると考えられ、季節的な生息地の利用状況と繁殖状況の継続的な調査がのぞまれる。

確認された本種の生息地および生息状況については採集記録とともに事項に示す。

●千種区

1. 天白町植田山 東山動植物園

東山動植物園は、千種区の南西側に位置する市営の動植物公園で敷地内に複数の池がある。このうち、本種の確認場所は植物園側にある歩道沿いの樹木に囲まれた水路で日陰が出来る環境であった（図2）。確認場所の面積は狭く、人工的で岸辺は石が並べられている。水路には、緩やかな流れがあり、水の濁りがあるものの水路の底が確認できる程度であった。調査により、目視で1個

表1. 調査地および確認種

確認地			種名（略称）										
番号	区名	確認場所	年	月	日	材	シマ	トガリ	ナミ	ヒメ	ハネナシ	コセアカ	ヤスマツ
1	千種区	天白町植田山（東山動植物園）	2018	5	5	△			△	△			
2	千種区	田代町（平和公園）	2017	10	23				●				
2	千種区	田代町（平和公園）	2018	6	2	●			●	●			
3	千種区	法王町（揚輝荘）	2017	10	14	●							
4	東区	徳川町（徳川園）	2018	8	11			△	△				
5	北区	平手町（志賀公園）	2018	6	7				●	●			
6	北区	名城（名城公園）	2018	5	24	△			●	●			
-	西区	なし											
7	中村区	中村町（中村公園）	2018	5	19	●			●	●			
8	中区	大須（久屋大通庭園）	2018	5	24				△	△			
9	中区	橋（下茶屋公園）	2018	5	18	●			●	●			
10	昭和区	鶴舞（鶴舞公園）	2018	5	18				●	●			
-	瑞穂区	なし											
11	熱田区	神宮（熱田神宮）	2018	5	14								
12	中川区	太平通（松葉公園）	2018	5	19				●	●			
-	港区	なし											
13	南区	笠寺町上新町（笠寺観音）	2018	5	24					△			
14	南区	呼続（呼続公園）	2018	5	24				△	△			
15	守山区	大森八龍（八竜緑地）	2018	8	25		△		△				
16	守山区	小幡緑地	2018	5	26		●		●	●			
16	守山区	小幡緑地	2018	7	15				△				
17	守山区	上志段味東谷	2018	5	26				●	●			
18	緑区	鳴海町笹塚（みどりが丘公園）	2018	5	19	●				●			
18	緑区	鳴海町笹塚（みどりが丘公園）	2018	8	12	●			●	●			
19	緑区	水広（水広公園）	2018	8	12	●			●	●			
20	名東区	猪高緑地	2017	10	23			●			●		●
20	名東区	猪高緑地	2018	6	2				●	●	●		
21	名東区	牧野ヶ池緑地	2018	6	2				△	△			
22	天白区	音聞山（仏地院）	2018	6	2	△			●	△			
23	天白区	天白町八事裏山	2018	6	2					●		●	
24	天白区	天白町平針大根ヶ越（二つ池）	2018	8	12				△				

注1：表中の番号は、図1の番号と対応する。

注2：「●」は目視および採集による記録。「△」は目視のみによる記録を示す。

注3：オオアメンボの確認データを太字で示す。

注4：種名（略称）は、それぞれの種名から“アメンボ”を除いた表記である。アメンボ *A. paludum paludum* (Fabricius, 1794) については別名のナミアメンボから“アメンボ”を除いた表記とした。



図2. 生息環境（東山動植物園）



図3. 確認個体（東山動植物園）



図4. 生息環境（平和公園）



図5. 確認個体（平和公園）



図6. 生息環境（揚輝荘）



図7. 確認個体（揚輝荘）

体を確認した（図3）。

故佐藤正孝博士は東山公園で本種を確認したというが（吉富・長谷川，1997），正式な記録はこれまでにない。前述した確認地の詳細については不明であるが，今回の調査で改めて東山動植物園内での生息が確認された。

2. 田代町 平和公園

平和公園は，千種区の西側に位置する公園で敷地内に複数の池がある。このうち，本種の確認場所は“ハンノキ湿地”にある樹木に囲まれた面積の狭い池でコナラなど樹木の枝葉が水面を覆い日陰が出来る環境であった（図4）。池は排水桝があるため人工のものと思われるが，岸辺は自然的でササなどのイネ科植物が生えていた。また，水は濁っていたが，排水桝があるためその周囲は多少の流れがあり，落葉等はあるものの浮遊物は少ない。

2017年時の調査では台風直後に実施したことも影響してか，本種を確認出来なかったが，2018年時の調査では生息を確認した。

調査により採集個体を含め，3個体程度が確認された（図5）。なお，本生息地は1の調査地から直線距離で1.4 km程離れている。

採集記録

1ex., 名古屋市千種区平和公園, 2. VI. 2018, S. Sawada

3. 法王町 揚輝荘

揚輝荘は千種区の中央部に位置する庭園である。本種の確認場所は，北庭園内にある樹木に囲まれた池でカエデ類の枝が水面を覆う他に白雲橋とよばれる廊橋が池に渡され，日陰が出来る環境であった（図6）。確認場所の面積は狭く，人工的で岸辺は石が並べられており，コイが放されている。また，水に濁りはあるが，緩やかな流れこみがあるため，落葉等はあるものの浮遊物は少ない。

初確認の2014年から3年が経過した2017年に再調査したが，採集した個体の他にも複数個体を確認された（図7）。詳細な個体のカウントや数季に渡る調査を実施したわけではないが，今回の調査で最も確認個体数の多い生息地である。なお，本調査地は，1の調査地から直線距離で3 km程，2の調査地から直線距離で2.4 km程離れている。

採集記録

1ex., 名古屋市千種区法王町揚輝荘, 14. X. 2017, S.



図8. 生息環境（名城公園）



図9. 確認個体（名城公園）



図10. 生息環境（中村公園）



図11. 確認個体（中村公園）



図12. 生息環境（下茶屋公園）



図13. 確認個体（下茶屋公園）

Sawada & S. Sawada

●北区

6. 名城 名城公園（北園）

名城公園（北園）は北区の南側に位置する城址公園である。本種の確認場所は、おふけ池の東側の最下流部で池の周囲は樹木で囲まれる。確認場所は、樹木に囲まれてはいるが日陰が出来る部分は少ない（図8）。また、池の面積は広く、人工的で岸辺は石垣で出来ている。その他に水に濁りはあるが、緩やかな流れがある。同所にはコイやオオクチバスも多い。

調査により、目視で1個体のみが確認された（図9）。なお、この個体は左右の後脚が脛節から跗節まで欠損していた。

●中村区

7. 中村町 中村公園

中村公園は中村区の北西側に位置する豊国神社と一体となった公園で敷地内に複数の池がある。このうち、本種の確認場所は南側の入り口付近にある樹木に囲まれた池で日陰が出来る環境であった（図10）。確認場所の面

積は狭く、人工的で池の岸辺は石垣で出来ている。また、水に濁りはあるが、緩やかな流れがあった。

調査により、採集した個体を含め2個体が確認された（図11）。

敷地内に日陰が出来るような池は他にもあったが、アメリカザリガニの釣りを目的とした親子連れで賑わっており本種の生息を確認できなかった。

採集記録

1ex., 中村区中村町中村公園, 19. V. 2018, S. Sawada

●中区

9. 橋 下茶屋公園

下茶屋公園は中区の南側に位置する東別院新御殿後庭跡地に造られた公園である。本種の確認場所は、敷地の南側にある樹木に囲まれた細長い池で日陰が出来る環境であった（図12）。確認場所の面積は狭く、人工的で池の岸辺は石垣で出来ているが、池の中央部などにはキシウブが植えられている。また、緩やかな流れこみはあるが、確認時の水の濁りはひどく浮遊物も多かった。

調査により、採集した個体を含め3個体が確認された（図13）。



図14. 生息環境（みどりが丘公園）



図15. 確認個体（みどりが丘公園）



図16. 生息環境（水広公園）



図17. 確認個体（水広公園）



図18. 生息環境（仏地院）



図19. 確認個体（仏地院）

採集記録

2exs., 中区橘下茶屋公園, 18. V. 2018, S. Sawada

●緑区

18. 鳴海町笹塚 みどりが丘公園

みどりが丘公園は緑区の東側にあり、名古屋市と豊明市の境に位置する公園である。本種の確認場所は、園内南側の愛知用水沿いにある竹林に囲まれた池で日陰が出来る環境であった（図14）。確認場所の面積は狭く、自然的に出来た池と考えられる。池にはコナラや竹などが倒れこんでいる他、岸边は落ち葉が堆積し、泥状になった箇所もあれば土の層が裸出した箇所もある。また、水の流れこみがほとんどないため水の濁りはひどく、浮遊物も多い。

本調査地には、2018年の5月と8月の計2回訪れたが、8月の調査時には池の水位が大幅に下がっていた。

調査により、5月時には採集個体を含め3個体程度の生息が確認できたが、8月では採集個体を含め2個体の確認に留まった（図15）。

本調査地は、5月および8月の調査とともに本種を確認出来たことから、一時的な利用の他に繁殖場所として利

用している可能性がある。

採集記録

1ex., 緑区鳴海町笹塚みどりが丘公園, 19. V. 2018, S. Sawada

1ex., 緑区鳴海町笹塚みどりが丘公園, 12. VIII. 2018, S. Sawada

19. 水広 水広公園

水広公園は緑区の東側に位置する公園で敷地内に複数の池がある。本種の確認場所は、水広下池の東側にある3つの池のうち、最下流部の池であった。3つの池はビオトープとして管理されており、いずれもヤシャブシ等の樹木に囲まれ日陰が出来る環境であった（図16）。確認場所の面積は狭く、人工的で池の岸边はコンクリート等で出来ているが、水辺の植物が池の水に浸かっている場所もある。また、水に濁りはあるが、上流側から流れ込みがあり、浮遊物も少ない。

調査により、採集した個体を含め10個体程度が確認された（図17）。同所ではウシガエルの幼生や成体も多く確認された。なお、本生息地は18の調査地から直線距離で1.4km程離れている。

採集記録

lex., 緑区水広水広公園, 12. VIII. 2018, S. Sawada

●天白区

22. 音聞山 仏地院

仏地院は天白区の北西側に位置する寺院である。本種の確認場所は、本堂東側の池で、日陰の出来る環境はあるものの樹木が少なく西側は開けている (図18)。確認場所の面積は狭く、人工的で西側の岸辺はコンクリート等で出来ているが、東側は土質である。また、水に濁りはあるが、流れ込みと排水桝があるため浮遊物は少ない。

調査により、目視で2個体 (雌雄各1個体) のみが確認された (図19)。

調査を行った市内13区24箇所のうち、7区15箇所では本種の生息を確認できなかった。確認できなかった場所の特徴については、コイなどの魚類が多く放流されている、池の面積が広く日陰になっている場所が少ない、池は樹木で囲まれるが日陰となる場所が少ない、浮葉植物が池の水面を覆っている、池の水質が見るからに悪い、アメンボなどの他種のアメンボ科昆虫の個体数が著しく多い事などが考えられた。

謝辞

揚輝荘での調査許可を快諾頂いた揚輝荘スタッフの方々並びに仏地院での調査許可を快諾頂いた同院の御住職に深くお礼申し上げる。

引用文献

愛知県環境部. 2015. 第三次レッドリスト レッドリスト
あいち2015, 愛知県環境部, 名古屋. 48 pp.
浅岡孝知. 1991. 渥美半島の昆虫相. 伊良湖, 19: 1-47.
浅岡孝知. 2008. 第3章 動物 カメムシ目. 作手村誌編集委員会 (編). 作手村誌 資料編 自然, pp. 289-315. 新城市, 新城.

浅岡孝知. 2014. 新城市のカメムシ類. 新城市立鳳来寺山自然科学博物館 (編). 新城市の自然誌, pp. 111-130. 新城市, 新城.

浅岡孝知・家城 司. 1990. 愛知県の異翅亜目. 愛知県昆虫分布研究会 (編). 愛知県の昆虫 (上), pp. 123-162. 愛知県農地林務部自然保護課, 名古屋.

Aukema, B. & Rieger, C. 1995. Catalogue of the Heteroptera of Palaearctic Region vol.1, The Netherlands entomological society, Amsterdam. 222 pp.

林 正美・宮本正一. 2018. 半翅目 Hemiptera. 川合禎次・谷田一三 (編). 日本産水生昆虫一科・属・種への検索 (第二版), pp. 329-427. 東海大学出版会, 神奈川.

堀 義宏・横井寛昭. 1991. 都市環境下の昆虫相について (2) 名古屋市の異翅目. 名古屋市衛生研究所報, 37: 93-100.

大平仁夫. 2014. オオアメンボ. 岡崎市 (編). 岡崎市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックおかげ2014, pp. 269. 岡崎市, 岡崎.

新修豊田市編さん専門委員会 (編). 2018. 新修豊田市史別編自然, 豊田市, 豊田. 710 pp.

矢崎充彦. 2015A. 第4節 カメムシ目 Hemiptera. 日進市史編集委員会 (編). 日進市史 自然史編目録, pp. 127-155. 日進市, 日進.

矢崎充彦. 2015B. オオアメンボ. 名古屋市環境局環境企画部環境推進課 (編). 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや2015—動物編一, 名古屋市環境局環境企画部環境推進課, 名古屋. 222 pp.

矢崎充彦・石田和男. 2008. 東海地方の水生半翅類. 佳香蝶, 60(234): 165-200.

吉富博之・長谷川道明. 1997. 愛知県のアメンボ. 豊橋市自然史博物館研究報告, 7: 35-39

